

エピペン注射液0.3mgおよびエピペン注射液0.15mg使用情報

(製剤と一緒にこの使用情報を患者さんにお渡しください)

警告

- 絶対に指または手を黒い先端に当てないよう注意してください。黒い先端から針が出てきます。誤って指または手に注射すると、その部分の血流量が減少することがあります。そのようなことが起こった場合には、直ちに最寄りの医療機関を受診してください。
- エピペン注射液0.3mgおよびエピペン注射液0.15mgは、太ももの前外側にのみ注射してください(「本剤の使用法」参照)。
- 使用時まで灰色の安全キャップは取り外さないでください。

「重要情報」

- 本剤は、緊急時に自己注射する薬剤ですので、誤った注射にならないよう、医師の指導および注意を守り、練習用エピペントレーナーを用いて、使用方法等を習熟しておいてください。また、この使用情報を熟読しておいてください。
- * 本剤は、アドレナリン(エピネフリン)を充填した一回投与型の注射剤です。また、安定剤としてピロ亜硫酸塩を含有しておりますので、アレルギーのある方は主治医にご相談ください。
- 本剤は緊急時の補助治療剤であり、医療機関での治療に代わり得るものではありませんので、本剤注射後も直ちに医師の治療を受けてください。

「保存に関する注意事項」

- * アドレナリンは光に分解し易いので、携帯用ケースに収められた状態で保存してください。
- 本剤は冷所または日光の当たる高温下を避け、15~30℃で保存してください。
- 有効期限年月に注意して、有効期限が切れる直前に、医療機関を受診し、新しい製剤の交付を受けてください(有効期限は、外箱および製品ラベルに表示されています)。また、本剤の有効期限切れ等お知らせプログラムが用意されています。製剤と一緒に渡された登録ハガキに必要事項を記載して申し込んでください。
- 本剤使用前には、溶液が変色していないこと、および凝固沈殿物がない事を確認し、それらの変化があった場合には使用しないで新しい製剤の交付を受けてください。

「使用に関する注意事項」

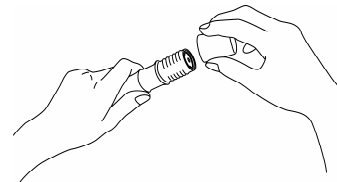
- 本剤は、蜂毒、食物及び薬物等によるアレルギーを治す薬剤ではなく、急なアレルギー反応(アナフィラキシー等)の症状を緩和する薬剤です。
 - 主治医から説明された徴候や症状を感じたときは、本剤を速やかに使用してください。
 - 本剤の投与時期等につきましては、主治医に相談してください。
 - 蜂に刺され毒針が残っている場合、できるだけ毒針を爪等で除いてください。この時、毒針を強く押ししたり、皮膚に深く押し込んだりしないでください。
 - 本剤の注射量は次のとおりです。
 - * エピペン注射液0.3mg : アドレナリン0.3mg/0.3mL
 - * エピペン注射液0.15mg : アドレナリン0.15mg/0.3mL
- 本剤注射後も注射液の大部分(1.7mL)が注射器内に残っていますが、再度注射はできませんので、ご注意ください。
- 本剤は分解しないでください。
 - 飛行機内にエピペンを持ち込む場合は、所持品検査時のトラブルを避けるため、予約時に機内に持ち込む旨連絡することをお奨め致します。

【エピペンに関するお問い合わせ先】

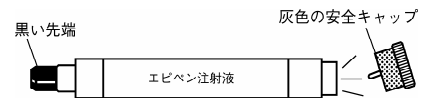
- ** マイラン製薬株式会社 カスタマーサポートセンター
TEL 0120 (933) 911 9:00~17:00
(土日祝日を除く)
- * www.epipen.jp

「使用方法」

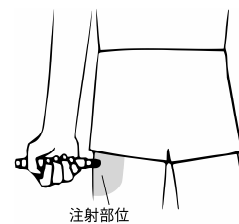
- (1) カバーキャップを回しながら外して、注射器を取り出す。



- (2) 灰色の安全キャップを外す。

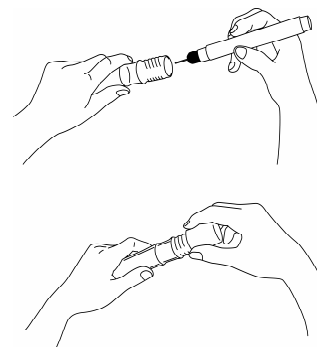


- (3) 注射器をしっかりと握り、大腿部の前外側に黒い先端を強く押し付ける。黒い先端部分に指を当てると誤注射する危険があるので絶対に行わないこと。
 - ・注射器が作動している間、押し付けた状態を維持する(数秒間)。なお、本剤は緊急の度合いに応じ、衣服の上からでも注射が可能である。



- (4) 適正に作動した場合には、針が出ているので確認する。

- (5) 使用済みの注射器は針先側から携帯用ケースに戻し、カバーキャップを回しながら押し込む。



- ・針先がゴムを突き抜け曲がり、容器から抜けなくなるが、カバーキャップを外して強振すると抜けることがあるので危険なため、注意すること。



- (6) 本剤注射後、直ちに最寄りの医療機関を受診する。

- (7) エピペン注射液を使用した旨を医師に報告し、使用済みの本注射器を提出する。